

ま  
と  
「江」と川越  
ひ  
ち  
市村正親さんに聞く  
ひと編



今年のNHK大河ドラマ「江 姫たちの戦国」は、一九八九年の「春日局」、二〇〇〇年の「葵 徳川三代」と同様、川越ゆかりの時代劇です。明智光秀役で登場する、川越市出身の俳優・市村正親さんに話を聞きました。

12月3日、NHK放送センターでの収録は、光秀が本能寺で信長を討ち、それを確かめる場面(第五回放送予定)でした。この日で撮影を終えた市村さんに尋ねました。

——今回のドラマの見どころは？

市村さん ドラマでは信長、秀吉、家康がすぐ近くにいます。何となく時代だったのだからと実感しました。その当事者の一人である光秀になり、まるでタイムマシンに乗っ



て時代をさかのぼったような気分でした。今回は、信長を討つたもの、「なぜそつしたのか自分でも分からない」というミステリアスな部分がある、新しい「光秀」を作り上げられたと思います。

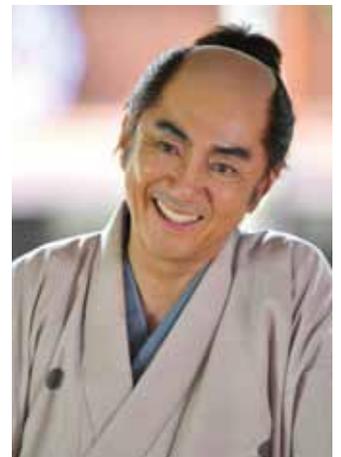
——市村さんにとって川越とは？

市村さん ふるさとです。子供のころは、喜多院や成田山の境内でよく遊んでいました。

友人を川越に案内すると、どこに連れて行っても喜んでくれます。見どころのあるまちですね。川越まつりも、毎年楽しみにしています。

——川越の変わったところ、変わってないところは？

市村さん 人が増えましたね。通りや景色など変わったところ



ろが多い中で、三芳野神社や富士見やぐらなどは、昔のままですね。それに、変わらないのは、幼なじみや同級生たちが元気で、帰ると喜んで迎えてくれるところですね。

——川越の皆さんへ一言

市村さん 川越では、皆さん気軽に「市村さん」と声をかけてくれます。どこへ行っても知り合いがいるという感覚になれるのが、うれしいですね。新しい年が、皆さんにとって良い年になることを願っています。

市村正親さん

俳優。川越市出身。小江戸川越大使。元劇団四季のトップスターで、退団後はミュージカル、舞台、テレビ、ラジオなどさまざまな分野で活躍中です。

自分を「太陽の光を浴びて変化する月のような役者」と表現する市村さんは、「太陽」の信長に対し、光秀の「月」のような部分をご覧ください」と話してくれました。太陽と月は、まさに『ステーキの横のクレソン』にも通じる部分。先日発行された同名の著書には、川越や舞台のさまざまな思い出が描かれ、何事にも前向きな市村さんの魅力があらわれています。

第1回	1月 9日(日)	「湖国の姫」
第2回	1月16日(日)	「父の仇」
第3回	1月23日(日)	「信長の秘密」
第4回	1月30日(日)	「本能寺へ」
第5回	2月 6日(日)	「本能寺の変」
第6回	2月13日(日)	「光秀の天下」

信長の妹・お市の方の三女にして、徳川二代將軍・秀忠の正室、三代將軍・家光の生母「江」。江戸城に大奥を作り上げるまでの波乱と苦難の連続に満ちた生涯を描きます。  
原作・脚本=田淵久美子 出演=上野樹里 ほか

●放送日時…日曜日▶NHK総合・午後8時～ / NHK BS11・午後6時～ / NHK BS2・午後10時～



市村正親さんの著書『ステーキの横のクレソン』(サイン入り)を抽選で3人にプレゼント

小江戸川越観光キャッチフレーズ「○ 薫るまち 川越」

応募方法…ハガキに○に入る漢字1字と住所・氏名を明記のうえ、1月25日(火)(消印有効)までに下記問い合わせ先  
問い合わせ…小江戸川越観光協会 ☎227-8233・〒350-0062 川越市元町2丁目1-10(川越まつり会館内)

\*発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。



# 八坂神社 社殿 (氷川神社境内)

県指定文化財

江戸城の天守閣台東照宮として建てられ、寛永14年(1637)に江戸城二の丸東照宮として移されました。その後、空宮となったため明暦2年(1656)川越城内三芳野神社の外宮として田曲輪(同神社の南)に移築されました。現在の社殿は、明治5年(1872)に氷川神社の境内に移されたものです。



## \* 社殿内部



天井板に描かれた草花の絵は江戸初期のもので、黒漆喰と極彩色仕上げの室内は、江戸城内の建築にふさわしい華やかなもの。

また、江戸城内の数少ない宗教的建築物の遺構として、歴史的価値は高く評価されています。

● 神社の行事によっては、ご覧いただけないことがあります。

天正十八年(一五九〇)、徳川家康の江戸入封に伴い、重臣が配された川越。江戸城北辺の守りであり、豊富な物資の供給地であったことから、川越には幕府の要職についた大名が藩主となるなど、幕府と密接なかわりがありました。寛永十五年(一六三八)の川越大火では、城内・城下の多くの建物を焼失しました。徳川家光は、江戸城紅葉山にあった別殿を喜多院に移築、また、仙波東照宮の再建を指示しました。川越は、江戸城内にあった建物が残るまち。江が生きた時代の建築を近くにみて、歴史を感じることができるといえます。

## 「江」と川越の建築に見る まち編

### 「江」の時代

- 一五七三 江、生まれる
- 一五八二 本能寺の変
- 一五八三 母の市、柴田勝家に嫁ぐ。三姉妹も勝家居城(越前・北ノ庄城)へ移る
- 一五八四 勝家、秀吉に敗れる。市、勝家とともに自刃。三姉妹は、秀吉に引き取られる
- 一五八八 江、尾張国大野城主・佐治一成に嫁ぐも、短期間で離縁
- 一五九〇 酒井重忠、川越に入封
- 一五九二 江、秀吉の甥、羽柴秀勝に嫁ぐ。秀勝、朝鮮で病死
- 一五九五 江、徳川秀忠に嫁ぐ
- 一五九九 天海、喜多院に住持
- 一六〇〇 関ヶ原の戦い
- 一六〇三 徳川家康、江戸に幕府を開く。江と秀忠の長女・千姫、秀吉の子・秀頼に嫁ぐ
- 一六〇四 家光、生まれる
- 一六〇五 秀忠、第二代将軍となる
- 一六一四 大坂冬の陣
- 一六一五 大坂夏の陣
- 一六一七 喜多院にて家康の供養を行う
- 一六二三 江と秀忠の長男・家光、第三代将軍となる
- 一六二五 家光、川越で鷹狩りを行う
- 一六二六 江、江戸城にて没す
- 一六三三 天海、仙波東照宮創建
- 一六三八 川越大火
- 江戸城紅葉山から喜多院へ客殿・書院・庫裏を移築

\*は、特別に許可を得て撮影した写真です



### 家光誕生の間(喜多院客殿内)\*

この建物が江戸城にあったころ、三代将軍徳川家光がここで生まれたといわれています。天井に彩色による81枚の花模様を見ることができます(表紙写真)。



### 春日局化粧の間(喜多院書院内)\*

家光の乳母・春日局かすがのつぼねが使用していた部屋。8畳2室、12畳2室があります。春日局の父・斉藤利三さいとうとしみづは、明智光秀の重臣といわれています。



### 喜多院 山門 重要文化財

寛永9年(1632)に天海僧正により建立されました。4本の柱の上に屋根が乗る四脚門の形式。川越大火の焼失を免れ、喜多院では現存する最古の建物です。



### 仙波東照宮 本殿\* 重要文化財

寛永10年(1633)に創建。川越大火により焼失したため、家光の命により川越藩主堀田正盛が再建に着手。寛永17年(1640)に完成。



### 喜多院 客殿\* 重要文化財

桁行(けたゆき)8間、梁間(はりま)5間(1間=約1.8メートル)の単層入母屋造りで柿葺(こけらぶき)。12畳半2室、17畳半2室、10畳2室があります。12畳半のうち一室が上段の間。湯殿と厠(便所)も設けられています。



### 喜多院 書院\* 重要文化財

客殿に接続する書院は、桁行6間、梁間5間、単層の寄棟(よせむね)造りで柿葺。枯山水の庭に面しています。一部に中2階があります。



### 喜多院 庫裏 重要文化財

客殿と書院に続く庫裏は、桁行10間、梁間4間の単層。一端は入母屋造り、他の端が寄棟造りになっています。屋根は、すべて棚葺(とちぶき)形銅板葺(移築時は棚葺)。母屋には、一部に中2階があります。

■喜多院の観覧は有料です(1月8日まで観覧は休み)。  
開館時間=午前8時50分~午後4時(日曜日・祝日は午後4時20分まで)